

1. 中国人1600人余、越境流入 : スヴァイリエン州バベット国境

ベトナムにおける反中暴動で、ホー・チ・ミン市にもっとも近いカンボジア国境のバベットには、5/14~16、1600人を越える中国人が押し寄せてきたという。そのほとんどが大陸中国人で、小さな荷物を持って、大慌てで逃げ出してきた様子だったという。カンボジアへの入国ビザを持っていない中国人が多かったが、カンボジア政府は特例扱いで入国を認め、バベット国境周辺の簡易宿舎にも、警察からビザなしでの宿泊を認めるという通知がなされた。簡易宿舎には1部屋に4~5人が泊まっていたが、5/20~22の間で、ほとんどの中国人がベトナムに戻ったという。5/22の午後には、バベット周辺で中国人の姿はまったく見かけなかった。

《 後方がバベット国境 》 →



突如として起こったベトナム国内での反中暴動は、ベトナム内で操業中の中国企業に大きな衝撃を与えた。ベトナム政府は暴動の再発を許さない姿勢を示しているが、中越間の領土問題はまったく解決しておらず、ベトナム市民の反中感情を払拭することはどういふ不可能な状況である。中国人労働者はベトナムを嫌い、早期の帰国を願っているものが多く、中国人経営者たちもベトナムからの工場移転を真剣にかつ緊急に模索している。すでにカンボジア国内の有力工場には、それらの中国人経営者から合弁や工場レンタルの話が多く持ち込まれている。ベトナムからの中国企業及び台湾・香港企業の撤退とその設備などの投げ売り、逆に漁夫の利を得ようとする日本や韓国・欧米系企業の中国企業の工場や設備の買収など、ベトナムをめぐる国際的企業間競争は、今後めまぐるしく変化するものと思われる。

2. スヴァイリエン州バベットで 4000 人規模ストライキ発生

スヴァイリエン州で 4000 人近い労働者が、4/22になっても引き続き自宅待機ストライキを行っていた。Collective Union of Movement of Workers (CUMW)の代表 Pav Sina 氏によると、スヴァイリエン州タイセン経済特区内にある3つの工場で働く労働者達は、工場の周辺に集まって4/19からストライキを行っていた。労働者たちが求めているのは、ストライキに参加しなかった場合に支払うと約束されていたボーナスの50ドルが、1月初旬に終了した全国的なストライキ現象を受けて結局払われずじまいになっていることと、そして今年早くにストライキを原因に退職させられた43人の復職だ。Sina 氏は、「工場は約束を破りました。それによって労働者達は怒り、抗議活動にいたりました。今回のストライキに参加しているのは Best Way 工場、Smart Tech 工場、You Li 工場の労働者達です」と述べた。

3. スヴァイリエン州バベットで一時は2万人規模のストライキ発生



4/28時点で、スヴァイリエン州では現在、およそ2万人の縫製業労働者達がストライキを行っている。労働者が怒った原因は、1月1週目に行われたデモ活動に参加しなかった労働者達に対して、同じ区域内にある別の工場が、ボーナスを支払っていたことだった。スヴァイリエン州のバベットにあるマンハッタン経済特区では、クメール正月明けから始まったこの抗議活動には30の工場から集まった労働者達が参加している。Collective Union of Movement of Workers (CUMW)が発表したところによると、A+J 工場がストライキ期間中の労働手当として、50ドルのボーナスを出していたことが原因なようだ。The Garment Manufacturers

Association in Cambodia(GMAC)は、CUMW がストライキを誘発したと見ているが、非難はせず、「もし他の労働者がボーナスを受け取っていると知れば、自分達も受け取りたいと思うのは当たり前でしょう」と Kat Lo 氏は話す。

4. バベットでのストライキが拡大

スヴァイリエン州のバベット地区では、経済特区全体が4/29の操業をストップさせた。週初めに労働者が工場や車

の窓を割るなどした騒動が起きている。警備員と警察官は、ストライキを行っている労働者達を工場に近づけないように見張りにたった。「他の労働者にストライキへの参加を強いる者もいるようです」と話すのは19歳のOrn Bandolさん。彼はマンハッタン経済特区のKingmaker Footwearで働いており、バベット地区に暮らしている。「山東 Sunshell 経済特区で働く労働者達は、警備員が工場の前に立って、労働者の中に入れてないようにしていた」と話し、またマンハッタン経済特区の警備員も、区域内のすべての工場がゲートが閉められていた。タイセン経済特区の多くの工場も、操業開始時間の朝7時半になってもゲートが閉まったままだった」という。Collective Union of Movement of Workersの代表Pav Sina氏は、「3つの経済特区において閉まったゲートの外に集まったのは数百人ではあったが、昨日は3万人もの人間がストライキに参加していたのではないかと話した。集まった労働者の数も、昼前にはだいぶ減少していた。「労働者の気持ちたちが落ち着いてくれば、あと3~4日で工場の操業は開始されるでしょう」とManhattan 経済特区の警備員は話す。工場の閉鎖は、Garment Manufacturers Association in Cambodia (GMAC)がストライキ開始以来2度目の声明を出した翌日から始まった。声明には「警察が工場の私的な備品を守らなかったことを非難する」といった内容であった。GMACの事務局長Ken Loo氏は、「経済特区から労働者を遠ざけておくために警察は人手不足が続いている。警察には法に従事し、暴力を振るう者は捕まえてほしいと思っています。工場長がストライキを行う労働者の暴行により負傷したという出来事も聞きました」と述べた。ストライキ参加者達は50ドルのボーナスを要求し、少なくとも工場や車の窓を破壊している。労働者を工場まで運ぶ運転手のKao Heng氏(33歳)は、月曜日に警察官から電話があり、「労働者をピックアップしないようにと命令された」、と話した。またBavet市の警察署長Keo Kong氏からのコメントはまだない。

5. スヴァイリエン州バベットのマンハッタン特区、スト参加者解雇

スヴァイリエン州バベットのマンハッタン経済特区(SEZ)で5月上旬まで続いたデモの参加者が解雇されたのは不当と、労働者団体が主張している。ベストウェイとFicoの2つの縫製工場で行ったデモは、経営者側がSEZ全体の操業を数日間停止したことで収束。ベストウェイではデモに加わった40人の従業員が解雇され、後任約10人が新たに雇用されたという。労働運動組合連合のミース・ソクナ氏は、「会社側はデモ開始から毎日数人ずつ解雇して行き、その数は最終的に40人を超えた。これは受け入れ難い」と主張。一方、ベストウェイの関係者は、「解雇はストライキとは無関係。業務量が減ったためだ」と反論。「(解雇された従業員は)働きぶりが悪く、職場で孤立していた」としている。

6. 5/22 スヴァイリエン州バベットのストひとまず収束

スヴァイリエン州バベットのタイセン・マンハッタン・山東 Sunshell などの経済特区で行われていたストライキは、5/22には収束しており、ほとんどの工場が操業を再開していた。しかし工業団地の門前には、可動式の有刺鉄線付き封鎖用ゲートが備え付けられており、いつでも労働者の侵入を遮断できるようになっていた。

《マンハッタン経済特区の門前》→



7. 4/18 : クメール正月明けの出勤拒否



クメール正月を終えた翌日から、賃金を求めた自宅待機ストライキが始まっている。しかしこの活動に関して疑問を抱いている労働者もいる。クメール正月が明けた翌日が、ボイコットを開始する日として公に発表されていたが、その日プノンペンからカンダル州へ向かう国道2号線に立ち並んだ工場群は、堅いゲートを閉じたままだった。Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Unionの代表のKong Athit氏は、「これをストライキと呼ぶのかなんて、気にしていません。いま存在する問題を払拭しない以上、ストライキの脅威は収まらないと、工場オーナー達に印象を残しているのです」と話す。Garment Manufacturers Association in Cambodiaの事務局長Ken Loo氏は、正確な数は伏せたものの、「操業を試みた工場もあったが、あまりに労働者がいないため不可能でした」と明らかにする。「ストライキに参加して仕事に復帰しない労働者が多くいるのでしょう。しかし休日後に労働者が戻ってこない、というのはよくある話です」、ともLoo氏は話した。

Phan Phavyさんは、「工場はすでに労働者達に休日を3日増やして与えることに同意しており、そのため彼自身はもうストライキを行う必要は感じていない」と話した。しかしプノンペンのカナディア工業団地のBuilding 13に勤めるSrey Neangさんは、「まだ状況がよく掴めていない。工場のスケジュール通り仕事に戻るか、ストライキが終わるまで待つかまだ決めていません。賃金は上げて欲しいですし、捕まった21人は早く解放してあげて欲しいと思っています」と話している。

Kampong Speu 州にあるComplete Honour Footwear 工場の労働者のPhan Phavyさんは、「工場はすでに労働者達に休日を3日増やして与えることに同意しており、そのため彼自身はもうストライキを行う必要は感じていない」と話した。しかしプノンペンのカナディア工業団地のBuilding 13に勤めるSrey Neangさんは、「まだ状況がよく掴めていない。工場のスケジュール通り仕事に戻るか、ストライキが終わるまで待つかまだ決めていません。賃金は上げて欲しいですし、捕まった21人は早く解放してあげて欲しいと思っています」と話している。

8. 4/22 : 出勤拒否ストライキは落ち着きを取り戻す

大きな広がりを見せるとされていた大規模ストライキが、落ち着きを取り戻し始めた。自宅待機ストライキは1週間にわたって行われる予定であったが、週末を迎える数日前での終了となった。Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union (C.CAWDU)のプログラムオフィサーは、「ストライキに参加している労働者はいない」と話す一方で、C.CAWDU代表のAth Thorn氏は、「10以上の工場で労働者達がストライキを行っていた」と話す。しかしThorn氏も、大多数の労働者が仕事に復帰したことは認め、「仕事に復帰した労働者の方が多いですが、しない者もいます。ストライキ初日の4月17日には、縫製関連の工場のうちおよそ90%以上が稼働しなかった」、と主張している。

クメール正月明けも大半の工場が月曜日まで閉鎖していたため、4/21がストライキの度合いを見る指標となった。あまりに多くの工場が3日連続で休業に追い込まれた為、C.CAWDUのプログラムマネージャーであるVorng Demornng氏は、「工場側が”あめとむち”の要領でストライキ対策を行った。ストライキに参加せず1週間ずっと仕事に来たものにはボーナスを出すというものだ」と話す。これに対してGarment Manufacturers Association in Cambodiaの事務局長Ken Loo氏は、「ストライキの予定期間中に働く労働者に対して、工場が手当てを支払うかどうかはストライキには影響をなんら与えない」と、話している。

9. 労働組合リーダー、保釈金を模索

Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union (C.CAWDU)代表であるAth Thorn氏は、4/21、保釈金2万5千ドルを募金で集めようと試みていることを明らかにした。彼は組織のメンバーにチラシの配布活動をさせて、自分がお金を必要としている状況にあることを人々に訴えているようだ。「十分な金額が集まらなかった場合、裁判所はなにか私達にとって良くない結果を出そうとするでしょう」と彼は話す。Thorn氏が4月8日プノンペン市裁判所に出廷を命じられたのは、SL縫製工場の警備員が起こした訴えが始まりだった。警備員は、ストライキはすべてC.CAWDUが引き起こし暴動を招いたものとして非難している。



10. リーダーが出廷を命じられる

2人の組合リーダーが出廷を命じられ、裁判所で4/23、尋問を受けた。ストライキの期間中Por Sen Chey地区のChoam Chaoにあるパッケージングの工場内で、「工場長が違法に監禁された」、との訴えに対する尋問であった。プノンペン市裁判所のEk Cheng Huoth氏によると、Harta Packaging Industryの製造部門チーフでありCambodian Friends Unionの代表でもあるSorn Bora容疑者と、同じくFriends Unionの副代表であるPhann Moeun容疑者が、工場長の中国国籍のSiva Kuwahさんを、2/11、違法に監禁したとの訴えが出ているという。Cheng Huoth氏は、訴えられている2人に罰を科すか、あるいはもう少し尋問を続けるか悩んでいるとも伝えられている。Por Sen Chey地区警察のYim Sarann氏は、この裁判を起したのはKuwah氏であり、「300人の労働者にストライキを仕掛けたのはこの2人であり、また、自分を工場内に閉じ込めた。労働者達は工場を取り囲んで、私が外に出られないように邪魔をしました。およそ1週間もそうしていたのです」と話す。Bora容疑者は、今回の訴えを否定しており、「実際には工場長はストライキの間、常に警察に守られていて問題はなかった」としている。Kuwah氏と彼の弁護士からはまだコメントはない。

11. カンダル州でもストライキ

カンダル州にあるUnity Fashion factoryの工場では、4/17に、仕事に来なかった労働者の給料を差し引くと経営側からの発表があった後に、700人もの労働者が仕事を抜けた。4/17は、クメール正月が明けて1日目である。

12. カルテックス給油所でスト、プノンペンの17店

5/12から、米石油メジャー、シェブロン系のプノンペン市内の給油所「カルテックス」17店の従業員が、ストに入った。月額賃金を現行の110米ドル(約1万1,000円)から、160米ドルに引き上げるよう求めている。4月に90米ドルから110米ドルに賃金を引き上げたばかりだが、従業員は満足していない。ストに参加する従業員は、「われわれはシェブロン系の従業員であり、160米ドルの賃金を求める」と主張。17年間勤めているという別の従業員は、「会社側は、生活コストの上昇に見合う賃金の引き上げを怠っている」と語った。カンボジア食品・サービス労働組合連盟(CFSWF)が主導しているもよう。従業員側は米国大使館に介入を求める意向も持っているという。

5/22、給油所「カルテックス」17店の従業員は、12日から行っていたストライキを解除した。米国の親会社と従業員代表、労働省が21日の話し合いで、従業員の月額賃金を20米ドル(約2,000円)引き上げることで合意した。6/01から適用する。シェブロンは今年4月に90米ドルから110米ドルに増額。従業員側はデモ開始当初、160米ドルへ引き上げるよう求めていた。従業員が求めている年次の賞与と従業員パーティー開催については、会社側はそれを認めていないという。

《 ストライキで閉鎖中の給油所 》 →



13. 国連職員が殺害される

4/28、国連の職員として働いていたオランダ人女性が刺されて死んでいるところが発見された。生後19ヶ月の彼女の赤ん坊もまた、危険な状況にある。Daphna Beerdsenさん(31歳)は、朝9時前に、家族のベビーシッターによって発見された。ノドム通り、ミャンマー大使館から道を挟んだ脇道にある借家にて彼女は赤ん坊のDanaちゃんの横に倒れていたという。BeerdsenさんがLinkedInに掲載していたプロフィールによると彼女は国連人間移住計画(UNハビタット)に携わるコンサルタントの仕事をしていました。現場にいた警察官によると、彼女は鋭い金属によって6回刺されて亡くなっており、凶器はスクレイドライバーや金属用のヤスリなどでは、と推測されている。赤ん坊もまた何回かにわたって同じ凶器で刺されており、昨日治療のためタイの病院に運ばれたものの危険な状態をさまよっている。昨日の夕方の時点で警察が行った発表では、凶器はまだ見つかっていないとのことだ。「赤ん坊は頭や背中、腰等に刺し傷があり、Kantha Bopha Children 病院に運ばれました」と内務省のCriminal Investigation Departmentに勤めるChan Sahuth氏は話す。そして「脳で血液凝固を起こしており、タイの病院へ移送されました」と述べた。外国人の事件を扱う部署に所属するプンペンのMom Sitha氏は「これは殺人事件です。動機などはまだ特定できていません。私達警察は現在必死に調査をしている段階です」と話した。警察はまだ事件を強盗殺人とは特定していないが、バイクがひとつ無くなっていたと発表。また、自宅に無理やり侵入した形跡も見当たらないという。

Daphna Beerdsenさんは、政府関係者の土地不正疑惑の調査を行っており、その面から事件に巻き込まれたのではないかと推測されている。

14. 北九州市、カンボジアから水道研修受け入れ

5/12、北九州市は、カンボジアのシエムレアプ市の水道公社職員を受け入れ、水道施設関連の技術指導を開始した。同市は世界遺産アンコールワットを擁し、観光都市として急速に発展、水需要の急増に対応した水質維持などが課題となっている。来日した公社職員4人は、今月末まで、薬品注入、水質試験、避雷技術などを現場で学ぶ。

15. リガク、カンボジアで7月に「世界結晶年」記念セミナー開催

5/15、科学機器メーカーのリガク(東京都昭島市)は、国連教育科学文化機関(ユネスコ)が2014年を「世界結晶年」と制定したのを記念し、カンボジア工科大学(プノンペン)で「リガク オープンラボ・in・カンボジア」を7月に開催すると発表した。同大学で「X線回折」についてセミナーや装置実習を行う。

16. 最近の外資の進出状況

・シンガポールの不動産オクスリー、プノンペンの複合施設販売開始

シンガポールの地元不動産会社オクスリー・ホールディングスは、プノンペンで開発している複合施設の販売を今月中に開始する。同施設は「ザ・ブリッジ」と呼ばれ、敷地面積1万90平方メートル。プノンペン中心部のナショナル・アセンブリー・ストリート沿いに建設される。ザ・ブリッジは45階建て、総戸数2317戸で、住宅部分762戸、オフィス部分963戸、小売り・飲食部分592戸から成る。販売価格は15万米ドルから。

・ノジマ、プノンペンに1号店オープン

家電量販店のノジマは、6/30にプノンペンに1号店をオープンする。白物家電、音響機器、携帯電話などを扱う。

・北海道の人材キャリアバンク、カンボジア同業と提携

5/09、北海道の人材サービス会社キャリアバンク(札幌市)は、カンボジアの日系同業クリエイティブ・ダイヤモンド・リンク(CDL)との業務提携契約を5日に結んだ。現地の日本人を含めた1万5,000人以上の登録者を、現地の日系や中国系、欧米系、地場企業に紹介している。

・岡山理大の人工飼育水活用で、エビ陸上養殖

カンボジアの山村で、岡山理科大の山本俊政准教授が開発した「好適環境水」を使ったエビの陸上養殖プロジェクト

が8月から始まる。陸上養殖は途上国の栄養改善や貧困対策につながると期待されるが、魚介類の病気が大きな課題だ。好適環境水は病原体が繁殖しにくい特長を持ち、山本准教授は「薬剤なしで養殖できる魔法の水。山村を漁村に変えられる」と語る。

•**タイの中小メーカー37社が海外進出計画 カンボジアが最有力**

タイ衣料産業協会のタウォン会長は、会員企業を対象とした調査を実施した結果、今年中に中小メーカー37社が周辺国を中心に海外進出を計画していることが分かったと語った。会員企業のうち、既に大手29社がこれまでに海外に生産拠点を追加したり、拠点を移転したりした。一方、同協会が海外進出を奨励しているため、中小企業の間にも進出意欲が高まっているという。拠点設置先としては、東南アジア諸国連合(ASEAN)域内の場合、隣国カンボジアが最有力候補で、ベトナム、ラオス、インドネシア、マレーシア、ブルネイがこれに次ぐ。

•**台湾肥料、カンボジア工場を計画**

台湾肥料(台肥)は、カンボジアに工場を新設する。

•**韓国の起亜自動車、カンボジア初の正規販売店**

5/09、韓国の起亜自動車は、カンボジア初となるショールームを開いた。A&Aオート・グループが運営する。

•**タイ系ビアホール「タワンデーン」、カンボジア出店**

タイでビアホール「ジャーマン・タワンデーン」を運営するタワンデーン・ジャーマン・ブルフリーは、カンボジアにビアホールを開業した。

以上